

令和2（2020）年度
事業計画書



令和2(2020)年4月1日
学校法人 四條畷学園

目 次

令和2年度事業計画の策定にあたって	1
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ	2
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方	3
中期計画の骨子	5
事業計画	
法人本部	6
四條畷学園大学	9
四條畷学園短期大学	15
四條畷学園高等学校	18
四條畷学園中学校	22
四條畷学園小学校	26
四條畷学園大学附属幼稚園	32
四條畷学園保育園	36
主な新規事業計画	39

令和 2 年度事業計画書の策定にあたって

昨年度は平成から令和へと御代替わりの様々な行事が行われ、新しい時代の幕開けを象徴する年になりました。

一方、令和元年の出生者が平成元年の 125 万人の 31.2%減の 86 万人と従来予測より 2 年早く 90 万人割れになるなど、私学を取り巻く環境はより一層厳しさを増し、変化への対応が求められています。

例えば、少子化の影響を最初に受けるのは保育園・幼稚園ですが、保育園・幼稚園は学園にとって大切な総合学園の入り口です。幼保部門については、少子化だけではなく、保護者ニーズや行政動向など変化への対応のため、一昨年 4 月の保育園開設、昨年 10 月からの幼児教育の無償化対応、11 月からの満三歳児の受入れ、そして本年 4 月からの認定こども園への移行、保育園の定員増などの大きな変化に積極的に取り組んできました。このような変化への積極的な取り組みが全校園で求められています。

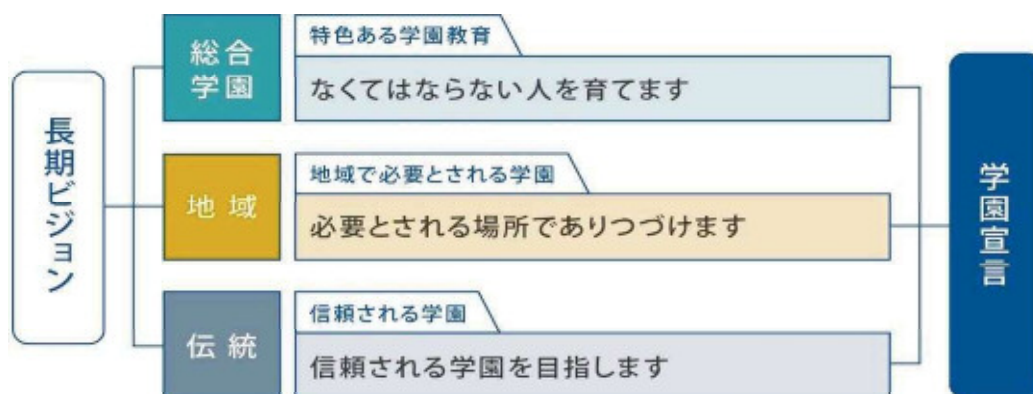
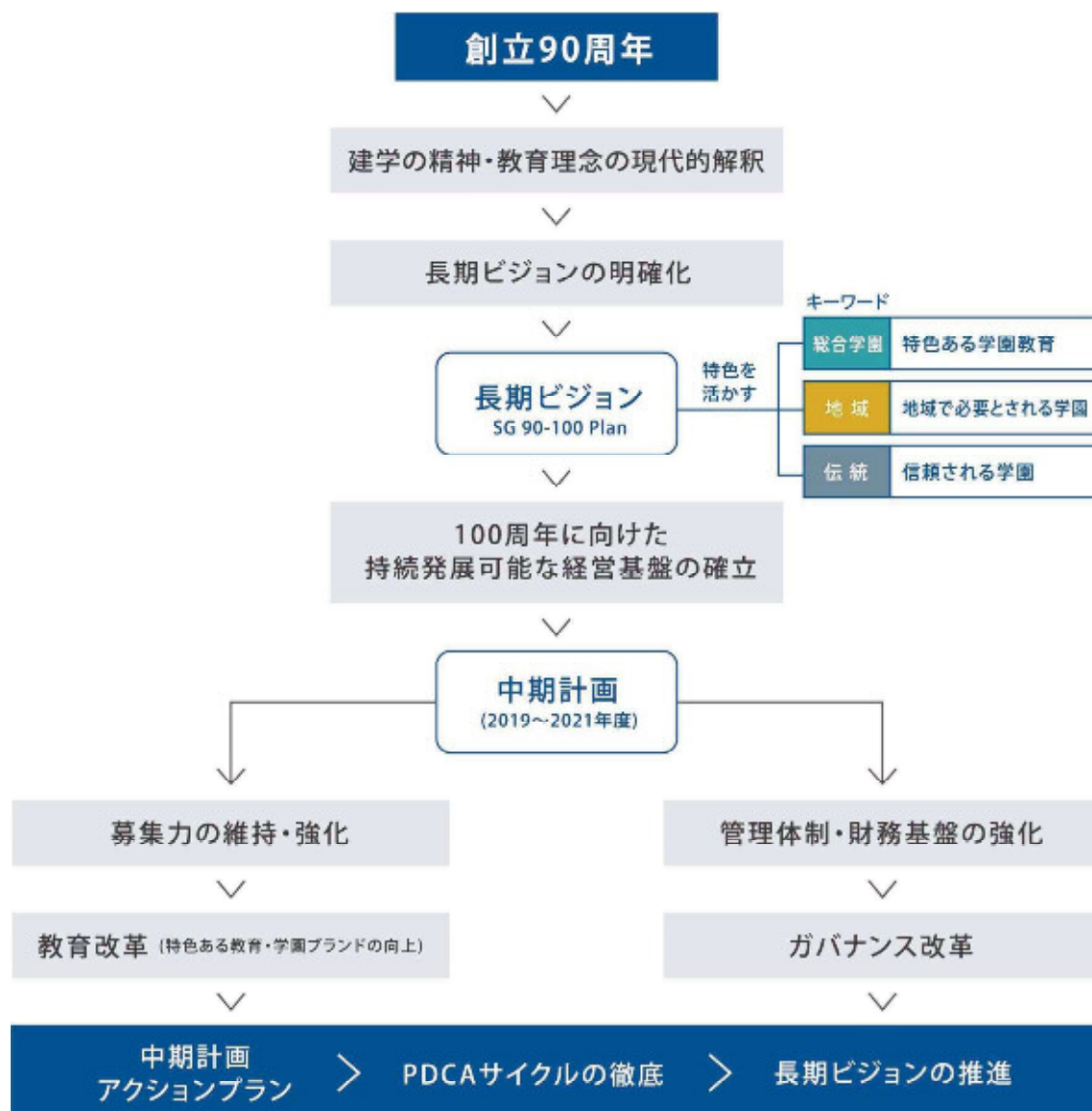
昨年 4 月の全学教職員会議で、学園が持続発展するためには、安定的な経営基盤が必要であり、そのための前向きの施策(教育改革、広報の強化)と効率化施策(人件費改革)を同時に進める「改革の方程式」という話しをしました。具体的には、学園が有している持続するために必要な三つの強みである①支持を得ている教育、②強い地域、③体力(当面の経営の安定性)を更に強化すること、その中でも特に、持続発展に必要な持久力のバロメーターになる採算ライン(損益分岐点)在籍者数の引き下げのための対応の重要性についてです。今年度以降、このような施策を同時に進めるために、現場の教職員の現状や背景に対する共通理解とともに、持続発展する学園のためという危機感、一体感の共有に努めていきたいと考えています。

本年 4 月にガバナンスの強化と経営体質改善の強化を目的とした改正私学法が施行され、中期計画の策定が義務付けられ、私学に対し問題先送りによる将来の危機を起こさないよう、より一層自律的な運営が求められることになりました。学園でも 90 周年以降、整備してきた長期ビジョン、中期計画、アクションプラン、事業計画というマネジメントサイクルの仕組みを通じ、施策の優先順位を決め、PDCA をしっかり回し、実効性を高めていくことで改正私学法の趣旨に沿った運営を行っていききたいと考えています。

学園は建学の精神が「報恩感謝」で保守的なイメージが強いですが、「原点」である創立時の気風はむしろ欧米のリベラルな教育を導入するなど、進取の精神に溢れ、その後の学園の歴史を振り返ると挑戦の歴史と言っていると思います。特に、様々な難局に遭遇した時にこそ、創立時の DNA が発揮され、今日までの発展につながってきました。私学を取り巻く環境変化への対応や最近の新型コロナウイルス問題が提起した教育のデジタル化への対応等、様々な経営課題の解決に向け、学園創立時の進取と挑戦の精神に立ち返り、全教職員が一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

学校法人四條畷学園
理事長 小谷 明

長期ビジョン・中期計画の全体イメージ

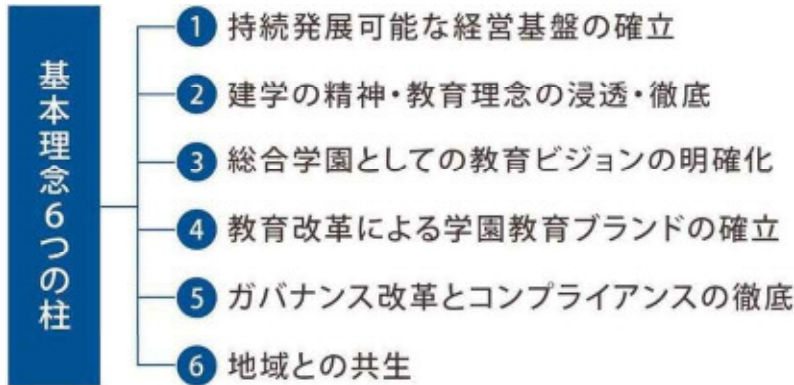


学校法人 **四條畷学園**

長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいいかたちで迎えられるよう六つの基本理念を設定して検討を進めました。



① 持続発展可能な経営基盤の確立

100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわからない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。

④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を重視します。

⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス（法令順守）意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。

⑥ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

2. 長期ビジョンの基本的考え方

【特色ある学園教育】

- 学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニングと「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

【地域で必要とされる学園】

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

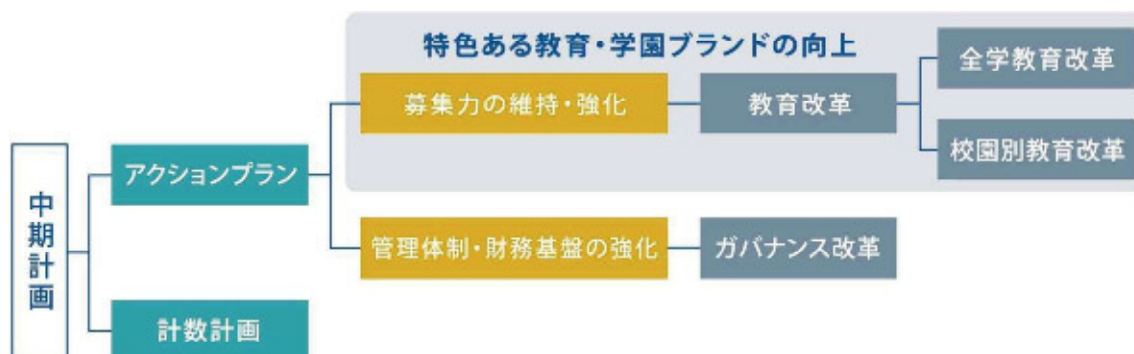
【信頼される学園】

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き継ぎ、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。

中期計画の骨子

1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は 2019 年度～2021 年度の 3 年間になります。



2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である 100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については「特色ある教育・学園ブランドの向上」に向けた教育実践の成果を今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」につなげるため、特に「広報×教育改革」のシナジー効果の視点を重視していきます。ガバナンス改革についてはアクションプランの課題を中心に見直しを行い、引き続き体制整備を図っていきます。

展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

法人本部

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1)SG 90-100 Plan(長期ビジョン・中計)の推進</p> <p>①第2次中計アクションプランの妥当性を検証します。</p> <p>②アクションプラン令和2年度進捗状況を確認します。(PDCAの実施)</p> <p>③第二次中計計数関連の進捗管理、見直しを検討します。</p> <p>(2)短期大学認証評価受審の準備</p> <p>短期大学認証評価における本部セクションの直近データを整備します。</p> <p>(3)新型コロナウイルス問題への対応及び教育・管理面からの中長期的な課題抽出、検討を行います。</p>
2	教育改革サポート	<p>(1)教育内容・水準、研究環境・基盤の充実、整備</p> <p>①幼稚園の体制変更による課題を抽出し、改善策を検討します。</p> <p>②保育園の受入れ体制の拡大を推進します。</p>
3	財務	<p>(1)学生生徒等 納付金の増収</p> <p>①高校学納金引上げに向けた私学課との交渉を継続します。</p> <p>②各校園の入学時奨学金制度を見直します。(継続)</p> <p>③高等教育無償化に係る事務体制を整備します。</p> <p>(2)外部資金導入等他の収入の恒常化</p> <p>①大学事務室と連携し、科研費、経常費特別補助の獲得目標の明確化に取り組みます。</p> <p>②返礼品付寄附金制度の更なる活性化を図ります。</p> <p>(3)人件費比率の適正化</p> <p>①令和3年の業績連動、査定導入型の期末手当支給に向けた事務・システム面の事前準備を完了します。</p> <p>②在籍者数に応じた適正な教員数の検討に向けた校園幹部との協議会を開催します。</p> <p>(4)経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持</p> <p>①損益意識の醸成に向けた教職員対象の財務情報説明会を定例化します。</p> <p>②財務内容に関する他校比較を継続します。</p> <p>③校園別損益管理を徹底します。</p> <p>④校園別、時系列分析によるコスト意識の醸成を図ります。</p> <p>⑤クラブ活動への補助、各種激励・奨励金制度の見直しを検討します。</p>
4	教職員の育成	<p>(1)教職員人材の育成</p> <p>①全学広報委員会による学園広報活動や監査担当者による法務リスク対応等を通じ、事務職員と教員間の連携を強化します。</p> <p>②人材育成サポート機能を強化するための学園アカデミー(仮称)を設置します。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>③公開授業をFD委員会教員から始め、振り返りミーティングを行います。</p> <p>④授業アンケート結果の分析、積極的活用します。</p> <p>⑤アクティブラーニングを拡大します。</p> <p>⑥事務連絡会におけるSD研修会を継続実施します。</p> <p>⑦若手事務職員の外部研修参加を継続します。</p>
5	人事制度全般の見直し・整備	<p>(1)教職員の定員管理</p> <p>①在籍者数に応じた適正な教員数の検討に向けた校園幹部との協議会を開催します。(3.財務とリンク)</p> <p>②本務教職員の嘱託、非常勤への置換えを検討します。</p> <p>(2)教職員の能力開発の仕組みの検討</p> <p>①人材育成サポート機能を強化するための学園アカデミー(仮称)を設置します。(4.教職員育成とリンク)</p> <p>(3)給与体系の全般的な見直し</p> <p>①教員評価制度実施当初における課題の抽出と解決策を検討します。</p>
6	組織・権限	<p>(1)コンプライアンス・ガバナンスの強化</p> <p>①内部監査、監事の機能により、寄附行為改正後の理事の業務執行状況の監査を強化します。</p> <p>②幹部後継者候補の募集チャンネルを開拓します。</p> <p>(2)内部統制、リスク管理機能の強化</p> <p>①休暇、時間管理システム導入直後の課題抽出と解決策を検討します。</p> <p>②変形労働時間制導入直後の課題抽出と解決策を検討します。</p> <p>③令和2年度人事異動に併せ、内部監査担当を再決定します。</p> <p>(3)意思決定の迅速化</p> <p>①休暇、時間管理システムの稼働初期課題の抽出と解決を図ります。</p> <p>②変形労働時間制導入に併せたシステムのカスタマイズ、運用の適正化を図ります。</p>
7	広報	<p>(1)戦略的広報体制の確立・展開</p> <p>①企画広報室活動活性化をサポートします。</p> <p>②企画広報担当者と大学募集広報室、各校園広報担当者との連携体制を構築します。</p> <p>③チャンネルごとの予算措置、優先順位を検討します。</p> <p>(2)情報公開</p> <p>①私学法改正にともなう開示基準と開示状況を随時チェックします。 開示内容の拡大、工夫の余地を検討します。</p> <p>②校園別財務状況説明会を定期・定例化します。</p>

No	施策種類	事業計画
8	その他	<p>(1)外部評価機関の活用</p> <p>①第三者評価、自己点検評価について本部役割を明確化します。 作業の効率化と課題解決のスピードアップを図ります。</p> <p>(2)施設の適切な管理</p> <p>①コース等見直し後の施設利用について総合的に検討を開始します。</p> <p>(3)危機管理と防災対策</p> <p>①高校体育館、総合ホール体育館の空調工事による熱中症対策を実施します。</p> <p>(4)キャンパスの総合整備</p> <p>①大東市との交渉状況を踏まえて、小学校プール、特別教室等の移転・新設の検討を開始します。 ②高校授業料引上げを原資とする食堂改修工費獲得に向け、私学課との交渉を継続します。(3.財務とリンク)</p> <p>(5)社会貢献・文化活動の推進</p> <p>①各校園の企画・活動を資金や設備、制度面で支援します。</p> <p>(6)同窓会等との連携強化</p> <p>①団体活動への人的支援や施設貸与基準など、学校法人としての基本方針を整理します。</p>

大学

No	施策種類		事業計画
1	重点取組事項	共	(1)建学の精神・教育理念・教育目標および3つのポリシーの浸透 ①入学時のオリエンテーション等において建学の精神・教育理念・教育目標を周知徹底します。 ②各学年のガイダンスにおいて、3つのポリシー(特に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシー)を詳細に説明し、学生の学修意欲を高めます。
		共	(2)入学定員・収容定員の確保 ①リハビリテーション学部は80名以上を確保します。 ②看護学部は80名以上の確保し、かつ入学生の質の向上による偏差値の上昇を図ります。 ③入学者の退学率を15%以下に抑制します。
		共	(3)国家試験受験者への合格支援 ①両学部とも合格率100%を目標とし、関西地区トップクラスの実績を残します。
		共	(4)大学のブランド構築のための6つの提案への具体的対応 ①大学のブランド構築プロジェクトで出された「6つの提案」の具体化を検討し、可能なものから順次実現します。
		共	(5)戦略的広報活動の展開 ①大学教職員、大学広報課、IR、学園広報が定期的にミーティングを行い、a.市場分析と戦略、b.資源の有効活用(媒体の選別、マンパワーの配分、その他ツール活用等)、c.広報雑誌・Web広告等の企画・運営、d.キャッチフレーズ、ロゴ、ペナント等の検討、e.オープンキャンパス等の企画などを主導します。
2	教育制度改正への対応	共	(1)新入試制度への円滑な対応 ①学力の3要素の評価を取り入れた新方式(集団面接、調査書、入学希望理由書等)による入試を円滑に実施します。 ②第2・第3志望を取り入れた新受験方法を円滑に実施します。 ③上記で課題が見つければ、2022年度入試で改善できるよう入試委員会で検討します。
		共	(2)新カリキュラムの円滑な導入 ①2020年度入学生への新カリキュラムを円滑に導入するとともに、講義用設備や教材等で改善が必要な項目は早急に対応します。

No	施策種類		事業計画
3	教育内容・水準の充実	共	(1)入学前教育の充実 ①入学前教育を抜本的に見直し、2021年度入学生に実施できるよう改善策を検討します。 －推薦入試合格者の入学前教育の評価と必要な改善を実施 －入学前オリエンテーション等の集合研修をより効果的な内容に改善
		共	(2)初年次教育の充実 ①専門科目や国家試験合格につながる着実な学力の伸長に寄与する初年次教育の方法を検討します。
		共	(3)学力差を前提とした学生満足度が高い教育 ①学生のレベルを把握するため、新入生対象の能力判定テスト、学修カルテやルーブリック等の活用を検討します。
		共	②成績不振者には対して特別補講授業を行い、少なくとも国試合格ラインまで引き上げます。
		リ	③学生全体の学力底上げのため、基礎教育科目を中心に能力別クラスの導入を検討します。
		リ 看 看	④成績優秀者を対象にチャレンジャブルな教育機会(ゼミ形式)を提供します。 ⑤1年次の年度末に特別補講期間を設け、2年次へのスムーズな学修移行を図ります。 ⑥地域の教育ボランティア等による学修支援を強化します。
共	(4)国際交流の推進 ①大学のイメージアップ、研究推進、補助金確保等のために重要との認識のもと、ワーキンググループを立ち上げ、2020年度のオーストラリア海外研修の実現や近隣のベトナムや中国などの大学との協力方法を検討します。		
共	(5)自己点検報告書の作成 ①自己点検報告書を作成し、教育内容・水準の向上のためのPDCAを機能させます。		
4	教育力向上	共	(1)教員評価制度の導入 ①教員評価制度を導入し、目標設定と評価の仕組みを定着させます。 ②高評価の教員へのインセンティブとなるような処遇制度を検討します。
		共	(2)FD・SD活動の充実 ①授業評価アンケートの結果を分析し、授業内容の改善に繋げるPDCAを確立します。 ②非常勤講師と各学年の知識レベル等について定期的に情報交換を行い、期待される教育水準、授業手法、成績不審者への支援方法等の標準化を図ります。

No	施策種類		事業計画
			③全教職員が外部講師を招いたFD・SD研修会や外部のFD・SD研修に半期に少なくとも1回以上参加し、また、内容を共有化することで教職員全体のレベルアップを図ります。
		共	(3)学修の質向上のためのツール導入の検討 ①FD委員会が教育ツールのベストプラクティスについて情報収集し、本学への導入が適切であると思われるものを積極的に提案します。
5	学生の学修モチベーション向上	共	(1)学生・保護者への支援 ①新入学生・保護者向けに「入学時の不安・ストレス等に関するアンケート」(ICPと協力)や個別指導を行い、学生生活不適合や成績不振による退学を防止します。 ②学生満足度調査の実施と結果および対応策を学生に開示します。 ③保護者との教育懇談会を実施し、学生・教員・保護者の連携を高めます。
		共	(2)学生との意見交換の活用 ①学生(代表)の意見を可能な限り取り入れ大学運営の改善に繋げることで、学生の大学運営への参加意識や満足度を高めます。
		共	(3)在学生と卒業生の定期的交流 ①卒業生が、「本学で得たこと」、「やり残したこと」、「後輩へのアドバイス」等を後輩学生に伝える場を設け、在学生の学修モチベーションを高めます。
6	研究活動の活性化	共	(1)健康科学研究所と研究支援資金の活用 ①本制度を積極的に活用し、研究活動を活性化します。また、活性化のために必要な制度改善を実施します。
		リ	(2)研究機器の更新 ①経年劣化や技術革新による更新時期を迎えている研究機器の更新および新カリキュラム対応の設備投資を、科研費間接費やその他補助金等も活用して推進します。
7	教育・研究基盤の整備	共	(1)学内教育環境の整備 ①グループ学習や自主学習に適した環境整備を積極的に進めます。 ②北条・学園町図書館の利便性を高めます。 ③学生の声ボックス等を通して、学生からの意見・要望を学内教育環境の整備に活用します。
		共	(2)補助金による学修環境の整備 ①私立大学等改革総合支援事業「タイプ1」等で本学が採択されるよう環境整備します。
		共 リ	(3)実習施設の開拓 ①新規の臨地実習施設を開拓します。 ②指定規則改定に対応した臨床実習指導者講習会を開催し、臨床実習指導者を育成します。

No	施策種類		事業計画	
8	社会貢献・文化活動推進	共 リ 看	(1)地域住民との接点 ①地域住民の関心高い地域包括ケアシステム、高齢者医療、生活慣習病等をテーマとする公開講座をリハビリテーション学部と看護学部で共同開催します。 (年1回) ②スポーツ相談室を核としたスポーツ関連の地域貢献を新たに検討します。 ③大阪府社会福祉事業団地域公益事業いっぶくステーションよるかでの「暇学ラポール(なわらぼ)」を実施します。(1回/月の健康教室担当)	
			共	(2)行政との連携 ①「北条まちづくりプロジェクト」・「四条駅駅前再開発事業」への参画や「介護予防センター」等の設立を地域連携委員会で検討します。
			共	(3)地域の企業との連携 ①地元企業が推進する「介助犬のひろば in 大東」や「ユニバーサルマップ作成」等に積極的に参加します。
			共	(4)府下大学と連携 ①大学コンソーシアム活動に参加し、府下大学との連携を高めます。
			共	(5)施設の開放 ①他機関から要請があれば会場として積極的に提供します。
9	進路支援・就職支援・卒業生支援	共 共 共 看	(1)国試対策及び就職支援の強化 ①国試合格者数増加と合格率100%を達成するための支援体制を強化します。 ②国試を再受験する卒業生を特別聴講生としてサポートし、確実な合格に導きます。 ③1, 2年生を対象に就職セミナー等を開催し、社会人に必要なコミュニケーション、問題発見・解決、自ら学び続ける能力を高めます。 ④進学相談を充実します。(保健師、助産師、大学院進学)	
			共	(2)卒業生支援の強化 ①卒業生とのネットワーク化、授業開発、教材開発、交流ネットワーク構築等の具体化を検討するワーキンググループを立ち上げ、順次実現していきます。 ②卒業生向け「学術講演会」や大学独自のホームカミング日の開催を定例化し、卒業生組織を継続的に強化します。
10	学生等募集対策		(1)競合校をさらに意識し、量と質を拡大 ①大学案内、HP、DMで、各専攻の教育内容の特色や傑出した研究、卒業生紹介等をアピールし、競合校との教育研究内容の差別化を図ります。 ②募集競争激化に対応するため、積極的な指定校選定を実施します。 ③地元エリア強化策と遠隔地エリア強化策にメリハリをつけ推進します。 ④主要模試前、高校生にDMを送付することで本学を志望校として記入するよう働きかけます。	

No	施策種類	事業計画
		共 (2)ストーリー性のあるオープンキャンパスの実施 ①資料請求者に対し、DM発送により「本学特徴の刷り込み」と「イベント情報発信」する～OCにストーリー性を持たせ、リピーターを増加させます。 ②3月開催による早期接触と低学年向プログラムを導入します。
		共 (3)Web 広告等の強化 ①本学 HP に週 1 件以上のニュースや公開情報を常時アップデートし、アクセス数を増やします。 ②広告効果の高いリスティング広告を強化します。 ③吹奏楽フリーペーパー冊子の作業療法学専攻の音楽療法を紹介するなど、効果的な広告を推進します。
		共 (4)高校訪問の強化 ①近隣重点高校とのリレーションを強化し、受験生増となる効果的な高校訪問を実施します。 ②卒業生が出身高校を訪問する機会を作り、本学の教育の価値を先生や後輩に積極的に伝えることで、志願者増につなげます。 ③高校生の大学見学会等を積極的に受入れます。
		共 (5)学校案内等を抜本的に改定 ①学校案内をゼロベースで見直し、訴求力・存在感のあるものに抜本改定します。
		共 (6)高大連携の強化 ①高校進路指導部との連携を強化し、内部進学数の増加を図ります。 ー学園中学・高校との学校説明や模擬授業等の内容を充実する。 ー入学金減免の拡充等により内部進学の特典を高める。
		11
		共 (2)リスク管理体制の強化 ①業務ミスやトラブルに係るヒヤリ・ハット報告の励行により、問題事象のリスクの所在や防止方法を共有し、リスク管理体制を強化します。
		共 (3)危機管理体制の強化 ①防災訓練(含む AED 訓練)を継続実施し、必要に応じて「本学防災マニュアル」を改定します。 ②受動喫煙防止のため「全面禁煙宣言」しており、禁煙セミナーによる啓発等で禁煙を徹底します。 ③防犯キャンパスネットワーク大阪(大阪府警)の定期研修会に参加し警察署と連携を強化します。

No	施策種類		事業計画
12	その他	共	<p>(1)事務の効率化</p> <p>①従来の事務フローをゼロベースで見直し、効率化を図ります。</p> <p>②高等教育無償化制度を円滑に導入します。</p> <p>③大学両学部および短大事務室の共通事務を統合し効率化を図ります。</p> <p>④事務優先度の明確化、フローのマニュアル化、職員間の連携強化等による生産性の向上を図ります。</p>
		共	<p>(2)SD 活動の推進</p> <p>職員が外部の SD 啓発研修会等に積極的に参加し、ヒアリングした最新情報を教職員間で共有し、事務プロセスの改善につなげます。</p>

短期大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	<p>(1) 募集活動の強化</p> <p>① 重点エリア・指定校への効果的な活動により、募集定員180名(保育100名、ライフ80名)の入学者を安定的に確保します。</p> <p>(2) 教育の質の向上</p> <p>① カリキュラムの定着に向けた取組のもと、学ぶ喜びを体感させ、より早い段階から進路活動のサポートを行う等、教育の質の向上に努めます。</p> <p>(3) 学生支援</p> <p>① 学生の学びの状況等把握に努め、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休学・退学の可能性がある学生に対し丁寧な対応に努めます。</p>
2	教育内容・水準の充実	<p>(1) 共通</p> <p>① 「課題発見・対応能力」を高めるため、アクティブラーニング等の教育ツールを積極的に活用しコミュニケーション能力の向上に努めます。また、必要な教養・知識を備え、主体的行動ができる人材を育成します。</p> <p>② 学生の満足度が高く、質の高い教育を提供します。</p> <p>ア. 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短期大学への期待を把握し、入学直後の指導を充実します。</p> <p>イ. 到達目標達成評価表(ルーブリック評価法)の導入により、運用や評価方法等、評価者の理解力を高め、カリキュラムの改善について検討します。</p> <p>ウ. 「授業評価アンケート」の実施、結果を踏まえ、「授業の質の向上」を図ります。</p> <p>③ 「文科省ガイドライン」に沿った短期大学における新たな3つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の定着を図り、PDCA 機能の強化を図ります。</p> <p>④ アセスメント・ポリシーに従い、学修成果を機関レベル、教育課程レベル、科目レベルで査定し、適正であるよう努めます。</p> <p>(2) 保育学科</p> <p>① ピアノ等のマンツーマン指導による「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」等の魅力ある教育を目指し、競合他校との差別化を図ります。</p> <p>② 「指定園」の見直し、取組み強化を検討します。実習先との意見・情報交換の機会を増やし、事前・事後学習の内容を改善に努め、実習内容の一層の充実を図ります。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(3)ライフデザイン総合学科</p> <p>現実社会に対応し生き抜く力を育成します。社会や学生のニーズを的確にとらえ、授業内容を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各スキルと就職先・キャリアパスの関連を具体的に例示し、主体的にライフデザイン(人生設計)を描く能力を高めます。</p>
3	教育・研究環境の充実	<p>(1)「なわてドリル(e-ラーニング)」の内容見直しにより、基礎学力の向上に努める。基礎学力とSPI能力の連動性や対象科目の変更等を検討し、充実に努めます。</p> <p>(2)ICTの活用の1つとして「eBook」による図書館の充実、24時間化を推進します。</p> <p>(3)科研費取得目標を300万円とします。</p>
4	教育・研究基盤の整備	<p>(1)教育提携の在り方について、社会情勢や学生ニーズを踏まえ、学びやすい環境について検討します。</p> <p>(2)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を通して、地域と協働の研究基盤の整備、検討に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四條畷市との連携事業において、実践・研究の質を高めます。 ・大東市との連携強化、施策などの見える化に努めます。
5	社会貢献・文化活動の推進	<p>(1)地域住民および企業のニーズ等実態把握に努め、求められる「社会人教育」について検討し、地域に貢献します。</p> <p>社会人リフレッシュ講座の新規講座の開講に向けて地域ニーズの把握に努め、参加者の増強を目指します。</p> <p>(2)地域・大学と連携し、各種ボランティア活動を通して地域との接点を強化します。</p> <p>(3)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等、地域に貢献します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大東市・四條畷市・門真市の各種委員会への教員派遣 ・地域の幼稚園・保育所等に出向き、情報交換
6	内部進学	<p>(1)学園高校向け説明会等で、学びと将来の就職先が具体的にイメージできるよう模擬授業の内容や説明に工夫し、本学に対する理解を深めます。</p> <p>(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期的な協議会)を構築し、「社会適応力」を高めます。</p>
7	進路対策・就職対策	<p>(1)各種業界等が主催する「就職フェア」等への積極的参加を促し、サポートに努めます。また、就職先の求人状況等実態把握に努め、新たな就職先の開拓に努めます。</p> <p>(2)大学編入希望者の個別相談に応じ、適確な支援を行い、「大学編入」の実績を上げ、就職以外の選択肢をアピールします。</p>

No	施策種類	事業計画
		<p>(3)卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓に繋がります。また、学生の就職活動に係る保護者説明会を開催します。</p> <p>(4)「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し、参加者・出席率を向上させ、公務員志望・適性のある学生を支援します。</p>
8	学生募集	<p>(1)重点エリアならびに高大連携高校をはじめとした重点指定高校へのきめ細やかなアプローチのもと、出前授業等の対応強化を図り、効果的な募集活動を行うことで、オープンキャンパスへの参加者増強に努めます。</p> <p>(2)2020年度から導入となった新たな入試改革において文部科学省の趣旨を踏まえた制度の定着に努めます。</p> <p>(3)学校案内、短期大学ホームページの広報媒体を通じて短大の魅力を伝えるべく、発信力(わかりやすさ・見やすさ等)の強化、改善に努めます。</p> <p>(4)模擬授業や短大生の実体験紹介を増やす等、学生の顔が見えるオープンキャンパスに変革します。</p>
9	災害対策への取組	<p>(1)「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等の確かな災害対策、対応ができる体制の確立を目指します。</p>
10	その他	<p>(1)事務品質の向上 コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進めるとともに、リスク管理を強化します。 ・事務処理の見える化により、効率化を目指します。 ・円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。 ・外部研修会への積極的な参加により知識の向上、事務プロセスの改善に繋がります。</p> <p>(2)事務部門では、短大と大学の連携を密にし、共通化できる項目を検討する等、事務効率化を目指します。</p> <p>(3)業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスクに係る意識の強化、定着に努めます。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神と教育理念に基づく学校経営計画及び教育計画の策定・実践	(1)理念・方針にもとづく教育計画の再構築	①4月に各学年・各校務分掌で、教育理念・教育方針を踏まえた指導目標・教育活動計画を策定し、その目標の実現に努めます。	目標や計画の重要性から自己評価 4.0 を目指します。
	(2)教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	①新学習指導要領の 2022 年からの実施に向けて、学園の特徴を前面に打ち出し、具現化を進めます。 ②教員の「授業力」向上のため、研修・会議・委員会・公開授業を活用し、教育課題や指導方法について話し合い有効な実践につなげます。 ③より良い教育実践のために、教員間のコミュニケーションや連携を図ります。 ④一貫コースの自分プロジェクトの内容を「SDGs」をメインテーマとしたPBL(問題解決学習)の取り組みとし、他のコースでの取り組みへと広げていきます。	いずれも自己評価 3.6 以上を目指します。
2 高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤の養成	(1)主体的・対話的で深い学び(AL授業)の実践	①基本的な知識・技能の習得のために分かりやすい授業改善に取り組み、内部での授業公開を定例化します。 ②思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。 ③課題解決能力を養うための主体的・協働的な授業を実践します。	いずれも自己評価 3.8 以上を目指します。
	(2)集団・社会に貢献できる態度・実行力	①基本的な生活習慣・態度・マナーを身につけるための指導をしっかりと行います。 ②クラス活動や行事活動を通して、協働や責任感などの社会性を身につける指導を行います。	どちらも自己評価 3.9 以上を目指します。
	(3)部活動を通して心身の鍛錬	①短い活動時間で集中し、技術や精神力など自らの心身を主体的に鍛える指導を実践します。 ②協調性や行動力など社会性を身につけるようチームワークを重視した指導を行います。	どちらも自己評価 4.0 以上をめざします。
	(4)市民性を育む教育	①18 歳の選挙権を見すえ市民性・主権者意識を育む教育を実践します。 ②よりよい地域を目指したボランティア活動等の集団的、体験的な活動並びに地域活動への参加を推奨し、実践的学習を推進します。	①は 3.5 以上を ②は 3.8 以上を目指します。
	(5)国際的資質を育む教育	①海外からの研修生・留学生を受入れ、また、本校から研修生・留学生を派遣し、これからの社会に必要な国際感覚を育てます。	4.3 以上を目指します。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3 人としての在り方・生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識の育成	(1)自己・他者が共により良く生きようとする態度	①学年別にテーマを決め、多様な人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施します。 ②学級生活や活動を通して、多様な価値観を認め合い、仲間と共に調和して生活しようとする態度を養います。 ③年3回のいじめアンケートの実施等、普段から生徒の日々の様子をしっかりと観察し、個人に応じたきめ細やかな指導を行います。	いずれも 3.8 以上を目指します。
	(2)一人ひとりのニーズに応じた指導	①様々な課題を抱える生徒一人ひとりをしっかり理解し、丁寧に対応し支援を行います。 ②生徒のニーズを把握し教職員が連携し、チームとして特別支援教育を実施します。	いずれも 4.0 以上を目指します。
4 進路目標の実現に向けて、未来を切り拓くキャリア教育・進路指導	(1)未来の目標を実現する能力	①自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を行います。 ②職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施し、キャリア教育を推進します。	①は 4.0 を目指します。 ②は 3.8 を目指します。
	(2)生徒の目標を実現させる進路相談・支援	①進学や就職にかかわる進路情報を提供し、丁寧で個性に応じた相談や助言を行います。 ②生徒のニーズに対応した放課後・休業中の講習を実施します。	いずれも 4.0 を目指します。
5 安心・安全な社会を築くための態度と行動力の養成	防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	①マニュアルに沿った避難訓練、大阪 880 万人訓練等地震・津波・火災等、防災・減災に向けた訓練を実施します。 ②自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める学習を実施します。	①は 4.2 以上を目指します。 ②は 3.8 を目指します。
6 内部進学強化	(1)中高連携強化 ①中高連絡会議の充実 ②内部進学増加のための具体的方策の実施 ③高校の魅力ある教育の新たな実施の検討	①中高連絡会議の内容充実と高校での教育内容の情報をしっかりと中学生に提供します。 ②学園中学の進路懇談会時、中学校舎で内部進学相談ブース(高校教員が対応)を設置し丁寧に対応します。 ③発展キャリアコースの魅力ある取り組み実践を学園中学生に公開し、興味関心を深めます。	学園中学校からの内部進学者数 50 名を目指します。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)高短連携の強化 ①高短連絡会議の充実 ③説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ④進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	①高短合同会議、高短連絡会、保育コースと保育学科の連絡会議をさらに充実したものにします。 ②学園短大模擬授業に代わる試みで、就職と編入学の状況説明会を実施します。 ③内部進学した先輩方の社会人としての活躍をしっかり高校生に紹介し、内部進学の利点をアピールします。 ④学園短大生の資格取得・就職状況をしっかり広報し、就職に結びつけた内部進学の指導を行います。	短大への内部進学者数 80 名以上を目指します。
	(3)高大連携の強化 ①高大連絡会議の充実 ②リハビリ・看護進学増加の説明会・体験授業等の新たな方策の実施 ③リハビリ・看護進学増加の高校進路指導における新たな方策の実施	①高大連絡会議をさらに充実します。 ②志願者増加に向けた魅力ある説明会・体験授業等を実施します。 ③ア. リハビリテーション学部の内部進学事前相談会は、とても内部進学への太いパイプとなっているので、継続して実施していただきます。 イ. 発展コースの探究活動の一環として、内部大学体験授業を企画検討しています。授業後は、レポート作成とプレゼンテーションの学習発表を行い、内部進学への理解を深めます。	大学への内部進学者数 10 名を目指します。
	(1)募集・広報体制の整備	①人員・組織の整備・・・業務委託の専従者2名の設置で、募集体制がさらに充実してきました。 ②活動計画の立案、実施・・・公立中学校への出前授業や高校選びの講演をさらに積極的に打ち出します。また、寝屋川市立第十中学校のように高校訪問を募集し、広報します。中学校訪問や塾訪問の徹底したマニュアル作成と研修を実施します。 ③活動予算の立案と効果的な実施・・・オープンスクールに協力してくれた生徒のモチベーションアップに繋がる特典を検討します。	
7 生徒募集 対策の強化	(2)募集・広報戦略の改善	①募集の方法・手段・時期の効果的な設定・・・紙媒体の広告を減らし、web 上のデジタル媒体へ移行します。 ②活動対象に応じた戦略の立案、実施・・・学園動画閲覧サイトを開設し、クラブ活動や学校行事等の生徒目線での動画をアップし、広報します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7 生徒募集対策の強化	(2)募集・広報戦略の改善	③活動内容・プログラム・PR ポイント・提供情報の工夫…各クラブの HP の充実を図る。またはクラブの FaceBook や Instagram 作成を許可し、日々の活動や戦績などを積極的に発信します。	
	(3)教育の特色の明確化	<p>①各コースの特色強化と実績の向上…総合キャリアコースは「サービス接遇検定」、発展キャリアコースは「論理言語力検定(リテラス)」、保育コースは「保育検定」それぞれの合格率の向上対策を検討します。</p> <p>②教育活動の充実と生徒の成長成果…アクティブ・ラーニングを推進し、月1回以上の実践を進めます。 また、学期に1度の公開授業を目指します。</p> <p>③教育理念に即した人を育てる教育の実践として、「実行から学べ」をテーマに全校生徒が参加して楽しめる企画を検討します。</p> <p>④男子生徒の募集に力を入れ、その対策を検討します。 ア.総合キャリアコースに男子生徒を受け容れるクラスの設置を検討します。 イ.男子の入部可能なクラブの増加を検討。 ウ.男子受入のための、クラブ推薦を検討。</p> <p>⑤特技推薦(クラブ推薦)による生徒増加を目指した検討を行います。</p>	特技推薦によるクラブ員 60 名以上を目指します。

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1)私学の独自性	①職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践します。 ②入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話をし、理解を深めます。 ③教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図ります。	①私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が 4.2 です。 ②諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説きます。(令和元年度生徒 4.2) ③生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行います。
	(2)生徒のニーズに対応したコース制	①授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行います。 ②英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。 ③英数発展コースは、夏期講習などで応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応えます。 ④6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成します。	①それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、教員の評価は 3.9 です。 ②(令和元年度 生徒 4.0 保護者 4.0) ③(令和元年度 生徒 4.4 保護者 4.3) ④(令和元年度 生徒 4.0 保護者 4.3) 全コースの平均 令和元年度 4.1 と、それぞれのコース理解が浸透してきました。
	(3)進路指導	①生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行います。 ②個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行います。	①生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンス(令和元年度 4.3)を行います。 ②個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっています。令和元年度は 4.3 と目標値をクリアしました。

【学習指導・人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)教科指導	<p>①各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組みます。</p> <p>②授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行います。</p> <p>③学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施します。</p>	<p>①教員によるシラバスに沿った指導、グループ学習やALを取り入れ目標を4.0以上にします。(令和元年度 4.1)</p> <p>教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を4.5にします。(令和元年度 4.2)</p> <p>②生徒・保護者による授業は分かりやすいか。(令和元年度 生徒 3.9 保護者 3.8)との開きが大きい、生徒保護者の目標値を4.2以上に設定します。</p> <p>③教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっています。(令和元年度 4.0)と0.3ポイント評価が上昇しました。</p> <p>生徒・保護者による生徒の学力向上への努力の数値は(令和元年度 生徒 4.1 保護者 4.0)となっています。</p> <p>生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(令和元年度 生徒 3.8 保護 3.7)4.0を目標とします。</p>
2 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり	(1)人権教育	<p>①「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。</p> <p>②いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てます。</p> <p>③障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行います。</p> <p>④12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施します。</p>	<p>①教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践していますが(令和元年度 4.4)と高評価です。</p> <p>②生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(令和元年度 生徒 3.7 保護者 3.8)と低い、目標は4.0以上と設定します。</p> <p>③教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践します。(令和元年度 4.3)</p> <p>④人権講演や道徳的な行事については(令和元年度 生徒 4.3 保護者 4.0)生徒の満足度も上昇し現在の人権教育を継続します。</p>

【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。	(1) 生活指導	①個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせます。 ②重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車マナーの啓発や挨拶運動を実施します。	①教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は4.5以上(令和元年度4.1)と下がりましたが、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導(令和元年度 生徒4.2 保護者4.2)と高評価です。 ②(令和元年度 生徒3.8 保護者3.9)と評価が低く、生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行います。
	(2) 危機管理と情報公開	①教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざします。また、災害に備えて備蓄品を整えます。 ②情報モラル講演会などにより、スマートフォンなどの情報機器の正しい使用法を習得させます。 ③学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行います。	①安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備(令和元年度4.3)及び、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策は(令和元年度4.1)はどちらも良い評価ですが、4.5以上の目標が必要です。 ②情報機器の正しい使い方では(令和元年度 生徒4.0 保護者3.7)と保護者が生徒に対する信頼が低いようです。 ③情報公開については、保護者の満足度が低く、(令和元年度 生徒4.2 保護者4.0)4.2以上を目指します。
	(3) 学校行事や部活動	①社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励します。 ②情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒トレーニングなど多彩な行事を充実させます。	①説明会やガイダンスなどで、クラブ活動の参加を奨励します。(令和元年度 生徒4.2 保護者4.0) ②多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てます。(令和元年度 生徒4.3 保護者4.4)
	(4) 課題を抱えている生徒への支援	①生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行います。 ②問題解決の部署としてICP(臨床心理研究所)の存在の明確化をすとも、相談しやすい環境づくりに努めます。	①日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっています(令和元年度4.1) ②生徒の個人面談等の満足度は低い。(令和元年度平成30年度 生徒3.7)両方とも4.2以上を目標とします。

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献	(1) 保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。	①保護者と協力し PTA 活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援します。 ②復興支援やボランティア活動等で地域に協力します。	①保護者から見る PTA 活動は(令和元年度保護者 3.9)目標値に近づけるよう活動を支援します。 ②生徒から見る生徒会活動は(令和元年度生徒 4.2)と昨年同様目標値に達しています。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 生徒募集対策	(1) 外部入試説明会は、新しい内容を取り入れさらに充実を図り、より多くの受験者の確保に努めます。	①生徒によるクラブ紹介やプレストを実施します。	①第4回説明会参加者数 350名以上を目指します。
	(2) 小中連絡会などを通じて内部小学校との連携充実に努めます。また内部進学者数の増加に努めます。	②中学校紹介・進路相談コーナーなどを設置し、公開授業・体験授業などへの児童の参加を勧めます。	①内部進学者 70%以上を目標とします。
	(3) 中高連絡会などを通じて内部高等学校との連携充実に努めます。	①各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するように努力します。	①内部高校への進学者 50名以上を目標とします。
	(4)3年コース(英数・英数発展)の高校進学実績の外部評価を維持します。	①今後も継続して進学指導の強化に努めます。	①安定した募集を目指します。進学実績を高め募集力をつけます。
	(5)ホームページの充実	①受験生、保護者等に四條畷学園の魅力をわかりやすく伝えます。	①本学の教育の特長を説明する等ホームページを充実させます。また、Facebookによる情報発信を一層充実させます。

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1(1) 選び抜いた内容の実践と改良	(1) 「指導要領プラス」をスローガンとしたカリキュラム・教材／教具を模索、実践しその効果を検証します。	① 講師(指導助言者)を招聘して複数回の校内研究授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てます。 ② 公開授業研究会に向け、長期的展望に立った研究をすすめます。 ③ 長期休業中の校内研修日を活用し、職員の合同研修を計画ます。 ④ 次回開催の公開授業研究会を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究深化に役立ちます。	指導力向上に関する教員自己評価を 4.3 以上にします。(令和元年度 4.3)
	(2) 1～6年生の英語カリキュラムと教材を開発します。	① 昨年度 1 年生用に再編した英語教材を改善します。 ② 昨年度再編した 2～6 年生のカリキュラムと教材を、より充実させるために改善を加えます。 ③ 5・6 年生の英語が教科になることに伴い、新たな教材や教授法を研究、開発します。各児童に英語学習機材をもたせ(シャープ英語辞書に入っているアプリ・ブレーン)、個別学習を実施します。 ④ 複数教員による英語科研究体制を構築します。 ⑤ 1～6 年生まで通したモジュール学習の教材の指導法を検討します。 ⑥ 私立小学校連合会英語部会主催の「小学生レシテーションコンテスト」に参加します。 ⑦ 英語の教科化に対応した絶対評価(Can-Do List に適応した)を導入します。	
	(3) プログラミング教育の教材を開発、研究します。	① ICT 研を軸とした研究組織を作り、現行の学習にプログラミングを加味した教材「K00V」を導入し、実践します。	
	(4) 道徳教材を精選、実践します。	① 道徳科研究部を中心に、評価項目の検討と改善を行います	
	(5) 社会科のカリキュラムを改善します。	① 独自のカリキュラム、「価値判断授業」を全年に導入します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1(2)学校行事の見直しと改良	(1)全校行事を改良します。	①保護者や児童の意見をもとに、ヤングアメリカンズや体育会、秋まつり、音楽会などに改良を加えます。	保護者、児童アンケートのうち、「行事は楽しく充実している」の評価を向上します。
	(2)宿泊行事を見直します。	①修学旅行の充実を図るために、旅行先を含めた検討を行います。 カントリーステイの内容の拡充を検討します。春は従来通りの田植え、秋には日帰り遠足で稲刈りを検討します。	
2(1)基本的生活習慣の育成	(1)児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、児童委員会・係活動・縦割り活動、行事の内容を再検討します。	①縦割り活動や児童会を通じて、児童自身が校内のマナー向上策を考えられるように活動形態を整備し、活性化を図ります。 ②児童会活動のシステムを、さらによきものになるように検討を加えます。特に児童会主催のボランティア活動を奨励します。 ③「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を行います。	主体性に関する教員自己評価を4.4以上にします。(令和元年度4.4) 保護者、児童アンケートのうち、「児童会活動や係活動をがんばっている」の評価を向上します。
	(2)規律遵守の意識レベルの向上を図ります。	①特に言葉づかいと姿勢について、教員が範を示し児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やします。年度末にマナーに関する自己評価の時間を設定し、フィードバックをうながします。 ②登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童の直接指導に当たります。 ③職員が交代で毎土曜日に四条畷駅に行き、乗車マナーの指導に当たります。 ④校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する機会を作ります。 ⑤年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護者に説明し、理解と協力を求めます。 ⑥マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と教員に周知しその徹底を図ります。	マナー・モラルに関する教員自己評価を4.0以上にします。(令和元年度4.0) 保護者、児童アンケートのうちしつけに関する3項目の平均(4.0以上)を維持します。
2(2)基礎学力の徹底	(1)国語の観点のうち、「書く能力」の向上を図ります。	①学年教科研究を研究の軸として機能するように時間と場所を確保します。 ②「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良し、複数の教員が授業化することによりプランの質的向上を図りま	学力向上に関する教員自己評価を4.2以上にします。(令和元年度4.2)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		<p>す。</p> <p>③「書くこと」を意識した授業を全カリキュラムに導入し、児童の書いたノート、WS 類を校内研究会で研究の対象にし、招聘した講師の指導助言を受けます。</p> <p>④統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p>	<p>学力テストの、国語の観点別評価項目「書く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>
	(2)国語の観点のうち、「聞く能力」の向上を図ります。	<p>①低学年では「読み聞かせ」を重視し、聞き取った内容や感想を発表し合う場を持ちます。</p> <p>②「読む・書く」の「繰り返し練習」により、「話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる」ための基礎となる知識、特に語彙力を増やします。</p> <p>③すべての教科で、聞き取ったことをメモしたりノートに取ったりする活動を増やします。</p> <p>④統一確認テスト等の学力テストで、基準とする値に達していない児童を抽出し、学級担任および学年補助教員が対象児童の学力向上に努めます。次年度の学力テストでその成果を再調査し、指導方法が有効であったかを検証します。</p> <p>⑤学力テスト対策委員会を立ち上げ、月1回基礎学力向上にむけた話し合いを持ち、合わせて模擬テストを実施します。</p>	<p>学力テストの、国語の観点別評価項目「聞く能力」をすべての学年で前年度以上に引き上げます。</p>
	(3)教員の指導力向上をはかります。	<p>①多様な指導形態による個に応じた指導法の開発に努めます。</p> <p>②学年主任を中核としたOJTを推進し、若手教員の授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化を図ります。</p> <p>③学年内でお互いに授業を公開し合い、授業力向上と学年内での指導方法の統一を図ります。</p> <p>④研究授業を増やし、相互の実践を対比することで指導力の向上を図ります。</p>	<p>計画的な教員研修に関する教員自己評価を 4.0 以上にします。(令和元年度 4.1)</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		⑤重点目標に合致する研修、研究会に参加し、指導力向上を図ります。 ⑥外部講師を招聘し、研究授業で指導助言を あおぎ、教員の資質向上を図ります。 ＊授業ネットワーク理事長 石川 晋氏に授業 と講演・指導助言 年間3回予定	

【人権・道徳】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3主体的な生き方の尊重	一人ひとりの興味関心を大切にし、だれにも自信を持たせる教育を行います。道徳教育、人権教育を軸に、互いの個性を尊重しあえる土壌をつくります。	①道徳教育の充実を図ります。教科道徳への移行をふまえ、週1回の道徳を確実に実施するとともに、「考える道徳」「学びあう道徳」の実践を進めます。 ②人権尊重を目標にした授業のほか、体験型の講習会や社会見学、人権を意識した校外行事を実施し、人権意識の向上をはかります。 ③ いじめ等を防ぐために、各学年アンケートを行い、人権意識を育てます。(学年はじめと宿泊行事の前に実施) ④日記や作文などをもとに、子ども同士の人間関係を推し量り、よりよい学校生活を送ることができる環境を整えます。 ⑤「学習の記録」及び「指導要録」に記載する個人内評価を検討し、実施します。	人権意識向上に関する教員自己評価を 4.1 以上にします。(令和元年度 4.1)

【施設・設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
4教育環境の充実	学校の美化に全校で取り組みます。	①児童の自教室の美化意識を向上させることを、校内全体の美化意識向上につなげます。 ②児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定期的に指導を行います。 ③児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、校内清掃を実施します。 ④老朽化した設備を修理、改修し、校内の安全性と美化を向上します。(体育館・教室・廊下) ⑤プール・更衣室・特別教室の移転先を検討し、計画します。	美化に関する教職員の自己評価を 4.0 以上にします。(令和元年度 4.0) 保護者、児童アンケートのうち、「校内の施設、設備は充実している」の評価を向上します。

【環境】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
5安心、安全な学校づくり	(1)児童の生命を守るために、対策をたて取り組みます。	<p>[一般防災に関する対策]</p> <p>①防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検討を行います。</p> <p>②マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的に点検します。</p> <p>③緊急集団下校マニュアルに添い、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練を行います。</p> <p>④緊急時の一斉配信システムを整備します。</p> <p>⑤宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。</p> <p>⑥大阪880万人訓練に参加し、防災意識の向上を図ります。</p> <p>[不審者等の危機管理]</p> <p>①不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行います。</p> <p>②不審者対策として、校内に防犯カメラを設置し、児童の安全確保をよりいっそう強化します。</p> <p>③不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。</p> <p>④地域集会で各地域の危険な箇所を選び、詳細な指導を行います。</p>	「防災や安全に関する指導」の教員自己評価を 4.0 以上にします。 (令和元年度 4.0)
	(2)児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って教育を行います。	<p>①「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。</p> <p>②外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を行います(四條畷警察による安全教室、NTTによる安全モラル教室 大阪府少年サポートセンターによる非行防止教室 大阪府警による非行防止教室等)。</p>	
	(3)防災対策を強化します。	<p>①火災、地震等の防災係を組織します。</p> <p>②防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練を実施します。</p> <p>③地域集会で、各地域に即した防災指導を行います。</p>	

【児童募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6内部連携を強化し募集活動を充実	幼稚園・中学校との連携を強化し募集活動を充実します。	<p>[幼稚園との連携]</p> <p>①連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。</p> <p>②保護者対象の公開授業や説明会を実施します。</p> <p>③幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。</p> <p>④児童による園児との交流の場を設け、小学校の取り組みが園児に伝わる機会を増やします(本読み、もの作り、音楽交流)。</p> <p>[中学校との連携]</p> <p>①連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流を深めます。</p> <p>②中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努めます。</p> <p>③内部進学の見学指導を強化します。</p> <p>④クラブ体験や授業体験を設け、中学の活動が小学生に分かる機会を増やします。(運動クラブ体験、文化クラブ体験、理科授業体験、中学出前授業)</p> <p>[募集活動を検討します。]</p> <p>①児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討します。</p> <p>②入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。</p> <p>③広報媒介を検討します。</p> <p>④私学展等の公開説明会での説明方法を改善します。</p> <p>⑤外部幼稚園への広報活動を拡充し、希望する園で説明会を実施します。</p>	<p>令和元年度は、幼稚園(年長 123 名)内部進学者 47 名(38%)でした。</p> <p>今年度は、94 名の年長園児のうち、内部進学者 40 名以上(40%以上)を目標とします。</p> <p>令和元年度は、中学内部進学者 63 名(64%)でした。</p> <p>今年度は内部進学者 70%以上を目標とします。</p> <p>令和元年度は、入学者 89 名でした。今年度は募集定員(90 名)が充足するように努めます。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
<p>1 幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを重視し、環境を通して、心身の健全な成長を促す中で、感謝の心を培います。</p> <p>・幼稚園型認定こども園に移行し、地域社会に向けて、子ども子育て支援事業の具体的な拡大を図ります。</p>	<p>(1) 建学の精神「報恩感謝」を実践するとともに、子ども子育て支援事業の拡大を図り、保護者全員が就労している場合等の家庭に向けての利用拡充を図る為、幼稚園型認定こども園に移行します。</p> <p>(2) 従来の教育・保育内容を引き続き実践するため「YYプロジェクト(ヨコミネ式教育法)」を推進します。</p> <p>(3) 「つどいの広場」・「相談支援」活動など積極的に子ども子育て支援事業を行ないます。</p>	<p>①教育時間は、1号認定、2号認定とも共通とし、幼稚園としての教育水準を保つようにします。</p> <p>②各号認定に応じて、保育時間の拡充として、早朝預かり保育、預かり保育、延長保育を設定します。</p> <p>③その利用方法は保護者全員が就労していない場合等か、保護者全員が就労している場合等かを行政と検討しながら、それぞれに預かり枠を設け保育を行ないます。</p> <p>④教育目標としては「心の力」・「学ぶ力」・「体の力」をバランスよく育み、人間的に自立し、自分の力で夢を実現できるようにします。</p> <p>⑤子ども子育て支援事業として、「つどいの広場」と「相談支援」を中心に積極的に活動していきます。</p>	<p>自己評価点を「3.8」以上とします。</p> <p>(これまでの幼稚園における評価をもとに、移行初年度を迎え、計画、準備、実行、評価の面から捉えます)</p>
	<p>(4) 感謝の気持ちを培い、表現できるようにします。</p>	<p>①あらゆる機会を通じて、「ありがとうございました。」の言葉が自ら出てくるようにし、「してもらったことに感謝し、自分もお返しをしよう。」という気持ちを養います。</p>	<p>自己評価点を「4.0」とします。</p> <p>(感謝の気持ちを持ち、それを伝える環境を作ることの評価指標とします)</p>
<p>2 基本的な生活習慣の形成と規範意識を高め、社会のマナーを身に付けます。</p>	<p>(1) 4学年体制になり、年齢に応じた基本的な生活習慣の形成とルールを守ることやマナー意識を身に付けます。</p>	<p>①最年少クラス(満3歳児)は、学年の途中から入園することを考慮し、年少・年中・年長クラスにおいては、学年に応じて、挨拶の徹底、衣服の着脱の習慣、食べる喜びを感じるとともに、食育の意識向上など、生活習慣上大切な習慣を身に付けます。マナーの点で、人と接する時に「しなくてはならないこと」と「してはいけないこと」の判断力の修得に努めます。</p>	<p>自己評価点「4.0」を目指します。</p>
	<p>(2) 集団生活に必要な思考力、態度と行動を養います。</p>	<p>①集団のルールを理解し、集団の中で自分の動きを意識する力と仲間への思いやりの気持ちを養います。</p>	<p>自己評価点を「4.0」以上とします。</p>

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3安全・安心な教育環境を整え、子どもの積極的で活発な活動を促します。	(1)安心・安全な教育環境の整備に努めます。	①1号認定、2号認定の違いにより、預かる時間に違いが生じるが、園全体の安全確保(セキュリティ)と保育室の環境整備に努めます。 ②最年少児(満3歳児)の水遊び、年少児以上の戸外プール時の安全対策に努めます。 ③登降園時の安全対策を徹底する。 ④園内における体調不良児の対応や感染予防に努めます。 ⑤防災・避難訓練・交通安全教育・防犯教室を実施します。	自己評価点を「4.0」を目指します。
	(2)各学年に応じた子どもの積極的な活動力を培います。	①教材・遊具・用具を利用して、各学年に応じた活発な行動を身に付けるようにします。 ②栽培や飼育を通して、命の大切さを考える機会を作ります。 ③遠足等の行事で視野を広げ、人との触れ合いの場を積極的に作ります。	自己評価点を「3.8」以上とします。 (最年少児の参加状況を見極めながらの指標)
4教育課程を通して積極的に取り組む行動や友達と助け合い協力する態度を身に付けます。	(1)教育環境の整備、充実を図ります。	①運動や遊びを通して、挑戦しようとする気持ちや技能を養います。 ②読み・書き・数えることに関心を持ち、主体的に考え、表現する力を養い、友達と一緒に喜んで活動に取り組み、努力や力を合わせることの大切さを学びます。	自己評価点「4.0」以上を目指します。
	(2)教職員の資質向上を図ります。	①週案を重視しながら、年間目標、中間報告等常にPDCAサイクルを回すようにします。 ②教育時間担当職員と預かり保育担当職員との情報共有、共通理解に努め、連携を強化していきます。	自己評価点「3.8」以上を目指します。
5子どもの個性・発達・特性に応じた指導を丁寧に行ないます。	(1)健康で活発な子ども、気がついて自然と優しくできる子どもに育てます。	①1号認定、2号認定における幼稚園の滞在時間によって、教育水準に差が出ないようにします。	自己評価点を「4.0」とします。
	(2)個性を伸ばす指導、支援を行ないます。	①一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に応じた指導を行ないます。	自己評価点「4.0」以上を目指します。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6保護者と連携した教育活動を実施し、地域の方との関係を密にしていきます。	(1)保護者との連携を重視して行ないます。	①満3歳児家庭、1号認定、2号認定家庭に可能な限りの協力・支援体制をお願い依頼します。	自己評価点を「3.8」とします。
	(2)地域の理解や協力を得ながら、子ども子育て支援事業を推進していきます。	①教育活動における支援と奨励に努め、子ども子育て支援事業推進のため、「つどいの広場」、「相談支援」事業を行ないます。	自己評価点「3.8」以上を目指します。
7教職員の研修を推進し、幼稚園型認定こども園運営体制の充実を図ります。	(1)園外・園内研修会を促進し、また、充実させ教職員の資質向上を図ります。	①研修会での情報の共有化を行ない、研鑽し、保育力を向上します。	自己評価点を「4.0」とします。
	(2)教職員の協力・連携を強化し、教育力の向上と教育内容の充実を図ります。	①学年目標の明確化を実施するとともに、週案を重視して、その到達度を確認していきます。	自己評価点を「4.0」とします。
8幼稚園入園希望の保護者のニーズを研究し、受験者数増加につなげます。	(1)最年少クラス(満3歳児)受入を順調に行ないます。	①最年少クラス(満3歳児)受入2年目を迎えて、幼稚園生活が順調に送れるようにします。	自己評価点「3.8」以上を目指します。
	(2)幼稚園型認定こども園としての運営を軌道に乗せます。	①幼稚園型認定こども園としての園生活が順調に送れるようにします。	
	(3)幼児教育・保育の無償化に伴う手続き等を確実にします。	①幼児教育・保育の無償化にともない「預かり保育」関係の手続き、給食費に於いて主食・副食費の手続きを適切に行ないます。	
	(4)預かり保育のICT化を導入します。	①多様化する預かり保育の利用拡大が想定されるため、ICT化を導入します。	
	(5)幼小連携の交流会や研修に参加し、特に内部進学強化と推進を図ります。	①幼小連携の交流会や研修に参加し、特に内部進学強化と推進を図ります。	
	(6)課外教室の開講教室を検討します。	①2歳児教室(ひよこ組)拡大により、開講場所が新たに必要になってくるため、課外教室の縮小を検討、実施します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
9園児募集対策	(1)最年少クラス(満3歳児)の募集広報活動の改善を引き続き行ないます。	①幼稚園園見学・幼稚園説明会、満3歳児受入説明会や入園募集説明会、園庭開放の参加者増につながるように、インターネットやポスティングサービス、ポスター、チラシや市報等の広報誌など様々な媒体を使って広報します。	自己評価点「4.0」以上を目指します。
	(2)1号認定の園児募集を積極的に行ないます。	①ホームページ閲覧につながるInstagram等の情報を提供していきます。	
	(3)2号認定に対応するため、管轄市町村との連携を密にします。	①子ども子育て支援事業「つどいの広場」、「相談支援」を行なうことで、地域の方のご理解をいただき、募集活動につなげます。	
	(4)2歳児教室(ひよこ組)に週一回コース(定員15名)を設定し、月～金で3コース45名に拡大します。	①2歳児教室(ひよこ組)に週一回コース(定員15名)を設定することで、これまでの開講場所が変更になり、新たな環境、場所設定を検討します。	
	(5)プレエクササイズの開講時期を検討します。	①前期プレエクササイズを廃止し、後期プレエクササイズを強化します。	

保育園

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1)事故防止への取組み 保育士によるチェックに加え、今年度より午睡センサーを導入し、人とシステムのダブルチェックにより午睡時の事故防止策を強化します。 また、午睡時にも十分な保育士を配置し、園児に目が行き届くようにします。
		(2)感染症対策の強化 手指用の消毒液の配置、教職員の常時マスクの着用、保育園内の消毒・換気、適正な室温・湿度の維持、教職員の検温実施等必要に応じて対策を強化します。また、教職員によりマニュアルの熟読等を通して感染症対策について知識の習得に努めます。
		(3)0歳児受入れ対応 今年度より受入れる0歳児について万全の保育体制を取ります。また、0歳児とのコミュニケーションを図るためベビーサイン(手話)に取組みます。
		(4)収支管理の実施 保育園を安定的に運営するため、保育園の管理職が予算目標(予算書)の内容を把握し、予算目標に基づき支出をコントロールできる仕組みを構築します。
		(5)定員増への取組み 保育園運営をより安定化させるため、次年度、定員を30名から40名に増員することを想定して必要な体制、保育内容等を検討します。
2	保育の質の確保・向上	(1)教職員の資質・専門性の向上 園外研修、園内研修の積極的・計画的な受講を通して保育教諭等の資質・専門性の向上に務めます。園内研修では外部講師を招いてヨコミネ式教育法の習得・向上に努めます。
		(2)設定保育の充実 かけっこ・体操、造形表現、リトミック、学習[文字・数字・国旗・地理・英語など]、絵本の読み聞かせ、英語絵本の読み聞かせをより一層充実させます。また、専門家による設定保育を教職員が共に行うことにより、教職員の保育スキルの向上に努めます。
		(3)絵本・紙芝居の充実 絵本、紙芝居の種類・冊数をより充実させ、読み聞かせを通して、感情豊かで、多くのことばを知っている(語彙力のある)子どもに育てます。
		(4)休憩対応保育士体制の強化 定員増に伴い、休憩対応保育士を増員配置し、教職員全員が休憩時間を確保できるようにし、保育の質の向上を図ります。

No	施策種類	事業計画
3	事故防止への取組み	(1)ヒヤリハット検証と事故の防止・抑止 過去のヒヤリハット、他園事故事例を教職員間で共有・確認して、類似事故の発生等を防止、抑止に務めます。また、大きな事故の発生を防止します。
		(2)食中毒防止の徹底 HACCP(ハサップ)によるプロセス管理を徹底し、食中毒発生の可能性を排除します。
4	働き方改革への取組み	(1)デジタルシフトの推進 コドモン、LINE WORKS等の活用によりデジタルシフトを推進し、教職員の事務負担を軽減するとともに保護者の利便性にも配慮します。
		(2)ペーパーレスの推進 必要なもの以外は紙での配付等を廃止し、事務負担を軽減するとともに保護者の利便性にも配慮します。
5	保護者満足度の向上	(1)WEB参観の実施 保育の様子をライブ配信し別室のモニターで見学できる「WEB参観」を定期的に開催します。教職員が同席し、保護者の反響、意見等を聴く機会としても活用します。
		(2)録画映像の提供 保育風景を録画し、YOU TUBEの限定公開機能により自宅等で見る事ができる機会を継続的に提供します。(公開期間は短期間に限定。URLを秘匿し検索できない設定。)
		(3)情報の共有化の推進 LINE WORKS、コドモンを通して、保護者の方と園とで必要な情報をタイムリーに共有します。
5	社会貢献・文化活動の推進	(1)地域枠の設定 地域枠の設定により、地域の待機児童、保留児童の解消に貢献します。
6	園児募集	(1)内部募集の強化 学園の教職員、保護者等への継続的な広報等によりPDK等の学園関係者への認知度を向上に務め、安定的な園児確保につなげます。
		(2)WEBサイト、SNSによる広報の充実 WEBサイトの充実、Twitter等のSNSのフォロワー数の増加により、園の認知度を向上させ、園児募集につなげます。
		(3)キャンセル待ちの確保 キャンセル待ちの園児を常時確保し、途中で退園する園児がでてもすぐに定員を補充できる体制をとります。

No	施策種類	事業計画
		<p>(4)本部と連携した継続的な園児募集の実施</p> <p>法人本部と役割を分担し、定員を充足すべく園児募集を継続的に実施します。法人本部は効果的な宣伝活動を行い、保育園の教職員は、他園比優良な保育を提供すべく、保育水準の維持・向上に務めます。</p>
7	内部進学	<p>(1)学園幼稚園への接続</p> <p>学園幼稚園と同じヨコミネ式教育法を徹底し、幼稚園に入園しても継続的で連続性のある保育となることにより幼稚園入園につなげます。</p>

主な新規事業計画

【法人本部】

No	事業名称	事業概要
1	[共通] ファイルサーバ更改	全校園で使用しているファイルサーバの更改
2	[共通] 教職員用 PC の更改	Windows7 の PC を Windows10 に順次入れ替え
3	[共通]清風学舎記念ホール Wi-Fi 設置	記念ホール内に Wi-Fi 環境を構築
4	[小学校] 体育館拐取工事	小便器の改修、洋式化
5	[中学校・高等学校] 飯盛嶺校舎リフォーム	エレベーターリニューアル、自動ドア設置、4～9 階へのネット設置
6	[高等学校] 体育館リフォーム	空調設備設置
7	[高等学校] 総合ホールリフォーム	講堂に空調設備設置、階段フロアの床改修
8	[高等学校] 本館調査	外壁タイル打診調査
9	[短期大学] 北条学舎体育館補修	外壁補修
10	[短期大学] 北条学舎食堂	ビストロ ウッドデッキ改修

【大学】リハビリテーション学部

No	事業名称	事業概要
1	VICON NEXUS2 へのアップグレード	Windows10 対応に伴う機器更改
2	3モーターベッド導入	指定規則改訂に伴う対応
3	プロジェクター設置	未設置教室への設置
4	Wi-Fi 設備及び LAN 機器更改	老朽化に伴う設備更改

【大学】看護学部

No	事業名称	事業概要
1	車椅子介助ブレーキ取り付け	授業用車いす 10 台へのブレーキ取り付け
2	殿筋注射 2Way モデル導入	2 台導入

【短期大学】

No	事業名称	事業概要
1	電子ピアノ導入	故障に伴い2台購入

【高等学校】

No	事業名称	事業概要
1	Chromebook 導入	発展キャリアコース、6年一貫コース用に計105台購入
2	校務システム機能修正・追加	校務成績システムの機能追加対応
3	バストロンボーン 1台購入	吹奏楽部対応

【中学校】

No	事業名称	事業概要
1	シュレッダー購入	老朽化に伴う更改
2	チューバ 1台購入等	吹奏楽部対応

【小学校】

No	事業名称	事業概要
1	Wi-Fi 環境構築	授業でのiPad利用対応
2	教室へのプロジェクター設置	授業でのiPad利用対応

【幼稚園】

No	事業名称	事業概要
1	フックスタンドB購入	制服掛け対応

【保育園】

No	事業名称	事業概要
1	保育用具の購入	保育の質の確保・向上に必要な保育用具の購入。
2	絵本、紙芝居の購入	図鑑、絵本、紙芝居の作品を充実。
3	楽器の購入	リトミックで使用する楽器の購入。



創立以来変わらない感謝の気持ちを未来へ